

犬

正岡子規

青空文庫



○長い長い話をつづめていうと、昔天竺に闕伽衛奴国という国があつて、そこの王を和奴和奴王というた、この王もこの国の民も非常に犬を愛する風であつたがその国に一人の男があつて王の愛犬を殺すという騒ぎが起つた、その罪でもつてこの者は死刑に処せられたばかりでなく、次の世には粟散辺土の日本という島の信州という寒い国の犬と生れ変つた、ところが信州は山国で肴などという者はないので、この犬は姨捨山うばすてやまへ往て、山に捨てられたのを喰うて生きて居るというような浅ましい境涯であった、しかるに八十八人目の姨を喰うてしもうた時ふと夕方の一番星の光を見て悟る所があつて、犬の分際で人間を喰うというのは罪の深い事だと気が付いた、そこで直様すぐさま善光寺へ駆けつけて、段々今までの罪を懺悔した上で、どうか人間に生れたいと願うた、七日七夜、椽の下でお通夜して、今日満願ざんげというその夜に、小おこたい阿弥陀あみだ様が犬の枕上に立たれて、一念発起の功德に汝が願い叶え得さすべし、信心怠りなく勤めよ、如是畜生發菩提心、善哉善哉、と仰せられると見て夢はさめた、犬はこのお告に力を得て、さらば諸国の靈場を巡礼して、一は、自分が喰い殺したる姨の菩提を弔い、一は、人間に生れたいという未来の大願を成就したい、と思うて、処々経めぐりながら終に四国へ渡つた、ここには八十八個所の靈場の

ある処で、一個所参れば一人喰い殺した罪が亡びる、二個所参れば二人喰い殺した罪が亡びるようになると、南無大師遍照金剛と吠えながら駆け廻つた、八十七個所は落ちなく巡つて今一個所という真際になつて氣のゆるんだ者か、そのお寺の門前ではたと倒れた、それを如何にも残念と思うた様子で、喘ぎ喘ぎ頭を擧げて見ると、目の前に鼻の欠けた地蔵様が立つてござるので、その地蔵様に向いて、未来は必ず人間界に行かれるよう六道の辻へ目じるしの札を立てて下さいませ、この願いが叶いましたら、人間になつて後、きっと赤い唐縮緬の涎掛けとうちりめん よだれかけを上げます、というお願をかけた、すると地蔵様が、汝の願い聞き届ける、大願成就、とおっしゃつた、大願成就と聞いて、犬は嬉しくてたまらんので、三度うなつてくるくるとまわつて死んでしもうた、やがて何処よりもなく八十八羽の鴉からすが集まつて来て犬の腹ともいわず顔ともいわず喰いに喰う事は実にすさましい有様であつたので、通りかかりの旅僧がそれを氣の毒に思つて犬の屍しかばねを埋めてやつた、それを見て地蔵様がいわれるには、八十八羽の鴉は八十八人の娘の怨靈おんりようである、それが復讐ふくしゆうに来たのであるから勝手に喰わせて置けば過去の罪が消えて未来の障りがなくなるのであつた、それを埋めてやつたのは慈悲なようであつてかえつて慈悲でないのであるけれども、これも定業じょうごうの尽きぬ故なら仕方がない、これじや次の世に人間に生れても、病氣と貧乏と

で一生困<sup>くるし</sup>められるばかりで、到底ろくなまな人間になる事は出来まい、とおっしゃつた、  
……………というような、こんな犬があつて、それが生れ変つて僕になつたのではあ  
るまいか、その証拠には、足が全く立たんので、僅<sup>わずか</sup>に犬のように這い廻つて居るのである。

〔『ホトトギス』第三卷第四号 明治33・1・10〕



## 青空文庫情報

底本：「飯待つ間」 岩波文庫、岩波書店

1985（昭和60）年3月18日第1刷発行

2001（平成13）年11月7日第10刷発行

底本の親本：「子規全集 第十一卷」 講談社

1975（昭和50）年10月刊

初出：「ホムトギス 第三卷第四号」

1900（明治33）年1月10日

※底本では、表題の下に「子規」と記載されています。

入力：ゆうき

校正・noriko saito

2010年4月22日作成

2011年5月11日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://wwwaozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたつたのは、ボランティアの皆さんです。

# 犬

## 正岡子規

2020年 7月18日 初版

### 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>